

第1問

5 10 15 20 25 30

- 5 A 在来の神々への信仰は、山などの自然物や祖先を神として祀るものであり、仏教も祖先を祀る呪術の一種として受容されたから。  
 B 奈良時代前期には、神社の境内に神宮寺を建てたり、神前で読経するなど神仏習合の動きが始まった。平安時代前期には、神が仏教に帰依して、僧形の神像彫刻もつくられるようになった。その後、神々は仏がこの世に現れた仮の姿と考える本地垂迹説が生まれた。

第2問

5 10 15 20 25 30

- 5 A 奥州平定や承久の乱の勝利によって、戦功のあった御家人に対して新恩給与が行われ、東北や畿内・西国に所領が与えられたから。  
 B 惣領は庶子にも所領の一部を与え、庶子は各々その経営を任された。その結果、庶子の独立の動きが強まる一方、分割相続にともなう所領の細分化が御家人の困窮を招き、所領を質入れしてその管理を借上に委ねたり、なかには売却して所領を失う者も出現した。

第3問

5 10 15 20 25 30

- 5 A 西日本では商品作物の栽培・加工や醸造業が盛んで、良質な商品が生産された。また、大坂を中心とする全国流通網が形成され、これらの商品は南海路を経て江戸へ、さらに東北地方へも運ばれた。  
 B 炭などは江戸周辺の農山漁村で生産されて江戸に送られ、米は幕領や東北地方太平洋側の諸藩の年貢米として江戸に廻送された。

第4問

5 10 15 20 25 30

A 都市民衆の政治意識が高揚し政党勢力が伸張する一方で、藩閥勢力は後退した。そのなかで護憲三派内閣が成立すると普通選挙法が制定され、「憲政の常道」といわれる政党内閣の慣行が始まった。

5 B 国際的な労働運動の高揚を受け、メーデーが開催され、階級闘争主義の日本労働総同盟が生まれ、コミンテルンの指導の下で日本共産党も結成された。政府は治安維持法でこうした動きを弾圧した。